

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

学校名	吉野ヶ里町立東脊振中学校
1 前年度 評価結果の概要	・佐賀県学習状況調査において、県平均を上回ることを目指し、今後も継続して授業改善と家庭学習の充実を図る。 ・道徳教育の推進と道徳の時間の内容を充実させ心の教育を推進し、自分や他の人の大切さを認め、自らの夢や目標の実現に向けて努力する生徒の育成を目指す。 ・今後も、家庭との連携を大切にし、いじめの実態把握と早期対応を徹底する。困ったことや悩みを相談できるように、生徒との日々の関わりを通して、お互いの信頼関係を築く。 ・不登校対策については、教育相談部会(毎週開催)、「不登校生徒支援ネットワーク連絡会(毎月開催)」を活用し、教育相談部会や連絡会の充実を目指す。S C、S S W、外部機関等と連携をとりながら支援を継続する。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、次年度も、長時間労働の解消、健康管理体制の充実等の課題について具体的な改善策を検討し、職員の共通理解を図る。
2 学校教育目標	「 未来へ ～知性・感性・耐性を、共に高める生徒の育成 」
3 本年度の重点目標	1 将来へ向けた確かな学力を身につけさせる 2 道徳教育等により、豊かな心を育てる 3 生徒自身のたくましい自立と豊かな自律を促す 4 安全で生徒が明るく活動する環境をつくる 5 業務を改善し、教職員の資質・能力を高める

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●職員アンケートで「めあて」「まとめ」「振り返り」の場面において、ステップ2まで到達した授業を実践できたと回答した教員80％以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・職員は自分が立てたプランに基づき授業改善に取り組んでおり、92％の職員が年度末までにマイプランを実行できていると回答している。 ・「まとめ」がステップ2に達している割合は57％と微増しているものの、「振り返り」については21％にとどまっている。終末の時間確保が課題である。
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「各教科の授業がわかる」と回答した生徒80％以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定する。	A	・全学年の授業では90％以上の割合で「めあて」「まとめ」「振り返り」の設定が行われている。 ・「授業が分かる」と回答した生徒が3年生と1年生は全教科で80％以上で2年生が社会・数学・英語で70％それ以外の7教科では80％以上である。 ・課題としては、振り返りの方法・家庭学習での復習方法の改善が必要である。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて「自分の道徳性が高まっている」と回答した生徒80％以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを実施する。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。	A	・道徳に関するアンケート(12月実施)において肯定的な回答をした生徒が87％であった。 ・T Tでの授業を行い、T1T2を中心に授業準備や振り返りなどを細やかに行った。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校がいじめ防止に取り組んでいると回答する生徒80％以上 ○いじめ防止について組織的対応ができていると回答した教員80％以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・きめ細やかな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底を図る。	A	・12月に実施しアンケートでは、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒は全体の88％であった。 ・いじめ防止について組織的に対応ができているかという質問に対して、「だいたいそう思う」「そう思う」と回答した教員は100％であった。
	○生徒行動目標「東中生みんなで頑張るHGS」よい挨拶、時間の管理、自問清掃の実践	○挨拶ができる生徒80％以上 ○時間を守り行動できる生徒80％以上 ○自分で考えて掃除ができる生徒80％以上	・全校、学年、学級、部活動などすべての教育活動を通じ、習慣化を図る。 ・学校行事や体験活動に向け、集中した取組を行う。 ・常に教師が清掃場所に立ち会い、清掃に率先して取り組み、生徒に達成感を味わわせるとともに掃除への意欲を高める。	A	・12月に3年生に実施したアンケートで「表情豊かによい挨拶」に肯定的な回答をした生徒の割合は74％、「時間を守り行動している」は86％、「精一杯自問清掃を行っている」は98％である。 ・学校行事や体験活動においては生徒主体で集中して取り組み、計画通り事前指導、振り返り活動を行った。
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎将来の夢や目標を持つ生徒80％以上 ○物事に粘り強く取り組む生徒70％以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	B	・将来の夢や目標を持っているかという質問に対して、肯定的な回答をした生徒は72.7％。3年生では80％であった。1年生は67％、2年生は71％であり、学年が上がることに割合は向上している。 ・物事に粘り強く取り組んでいるとアンケートで回答した生徒は全学年で82％であった。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える生徒80％以上 ○朝食を摂る生徒90％以上	・毎月1回、保健だよりやアンケートを通して朝食をとることの意義の理解と啓発を行う。 ・家庭科や学級活動の授業を通して、朝食の大切さを再認識させる。	A	・「健康に食事は大切」であるとする生徒は98％であり、中間報告時よりも4％増えた。 ・朝食をとって登校する生徒は90％で、中間報告時より1％減少した。 ・11月の給食の残量調査では、残菜量が9月調査より約、25kg減少した。減少した理由としては、「残さず食べよう」と学級での声かけや家庭科の授業で食品ロストについて調べ学習を行い、食べ残しを減らそうと意識する生徒が多少増えたためだと考えられる。
	○健康や体づくりについて意識づくりの促進	○部活動や社会体育、文化活動に積極的に取り組む生徒80％ ○感染症予防を徹底している生徒90％	・部活動の顧問を複数体制とし、常に臨場指導を行う。 ・部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方について、保護者会と連携を図る。	A	・部活動や社会体育、文化活動に積極的に取り組んでいる生徒は、1年99.7％、2年87.8％、3年66.7％であった。各部活動が、休業日を適切に設定し、活動できた。顧問の複数体制は来年度も引き続き継続すべきだと考える。 ・感染症予防のための体調チェックを週末も顧問が確実に行った。生徒自身の感染症予防の意識を高めることにもつながり、集団感染を防ぐことができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・長期休暇を生かした、夏季休暇5日の完全取得と年休5日以上完全取得 ・教師のタイムマネジメント意識の改革 ・教材の共同作成	B	・定時退勤日の設定を行い、水曜日の退勤時間は早まったものの、依然として居残り作業をする職員が散見される。 ・夏季休業中は学校閉庁日を設けたため、夏季休暇5日の完全取得ができた。また、76％の職員が年休を5日以上取得できた。 ・今年度教科化された特別の教科道徳については、ローテーション道徳の実践とともに、教材の共有化が図られた。
	○より適正な部活動の推進と健康管理体制の充実	○教育委員会が示す部活動ガイドラインや「部活動活動方針」に基づき、適正な部活動を目指す ○教職員のメンタルヘルス対策を推進する	・部活動の休業日を「部活動活動方針」に定め、実施を徹底するとともに、保護者に周知する。 ・管理職は時間外勤務が多い教職員に対する産業医(学校医)による面接を奨励する。	A	・部活動ガイドラインを遵守し、平日1日、週休日1日の部活動休業日を100％設定することができた。 ・時間外勤務が長時間に及ぶ職員には、個別の呼び掛けを行い、勤務時間の削減につなげることができた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
○不登校対策の推進	○不登校及び不登校傾向の生徒に対する体制づくりの促進	○教育相談主任を中心に「つなぐ」「働きかける」をキーワードに、全職員が共通理解したうえで、不登校の生徒や家庭に働きかけることにより、不登校生徒の縮減を図る。 ○新たな不登校生徒を出さないための未然防止対策に努める。	・「電話作戦」や「担任+1の家庭訪問」、保護者同伴の「別室登校」など、保護者と話をする機会を積極的に作り、保護者の意向を聞きながら、チームで対応していく。 ・自己有用感を高めるための出番をつくり、承認や称賛を与える。 ・学校適応指導教室や関係機関との連携を図る。	A	・月に1回ネットワーク連絡会を実施し、町全体で不登校に対する支援や手立てが共有できた。行政からの支援も有効であった。来年度も連絡会を引き続き継続するべきだと考える。 ・学年で共通理解をし、不登校生徒への手立てを考えることで、電話連絡や家庭訪問での対応の仕方、別室登校の確認等確実に行うことができた。 ・定期的に登校するようになった生徒もおり、不登校傾向の生徒(不登校傾向も含む)の割合は減少した。年度末に不登校傾向の割合は1年生3％(2人)、2年生5％(3人)、3年生3％(2人)となった。

●・・・果共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・学力の向上に向けて全ての教科で「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえた授業改善を図る必要がある。また、学習内容の定着のため、家庭学習の充実を図る必要がある。 ・心の教育では、道徳教育の充実やいじめ防止への取組により豊かな心の育成について成果が現れている。次年度は、体験的な活動やキャリア教育の充実を図り、将来の夢を持ち、その実現に向けて粘り強く取り組む生徒の育成を目指す。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、一層の時間外勤務の削減を図りつつ、協働と分担により職員の資質・能力を高める。また、面談やストレスチェック、健康情報誌Smileの活用等によって健康管理体制の充実を図る。 ・不登校対策については、毎週実施の教育相談部会、月1回実施の「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」において、継続的に情報交換を行い対応を協議して成果が現れている。次年度もS Cや外部機関等と連携をとりながら支援を充実させたい。
----------------	--